

第7回アフリカ開発会議（TICAD7）サイドイベントへ参加

8月27日（火）から30日（金）まで、パシフィコ横浜において、アフリカ53か国、開発パートナー52か国、108の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等、42名の首脳級参加者を含む約10,000名が参加し、第7回アフリカ開発会議（TICAD7）が開催されました。本学アフリカサカオオフィスが中心となって本会議場に北海道大学の紹介ブースを設置し、本学のアフリカにおける学術・留学生交流、研究及び国際協力活動の紹介及びサブサハラ・アフリカにおける「日本留学海外拠点連携推進事業」をはじめとするアフリカサカオオフィスの活動紹介を行いました。

ブースには、アフリカサカオオフィスから奥村正裕所長（獣医学研究院教授）、日下部光准教授、人獣共通感染症リサーチセンターから副センター長の澤 洋文教授、ザンビア拠点長の東秀明教授、梶原将大特任助教、シンプトウェ・マニヤンド研究員（ザンビア）、工学研究院から伊藤藤生助教、片岡良美技術職員、保健科学研究院から山内太郎教授、メディア・コミュニケーション研究院から鍋島孝子教授、国際連携機構から南波直樹国際オフィサー、植村妙菜URA、国際部から村瀬達哉国際協力マネージャー、安高由香利特定専門職員が参加して、広報活動を行いました。

本学はアフリカから100名以上の留学生を受け入れており、特にザンビアとは長い研究交流と実績を有しています。来日したザンビア共和国のエドガー・ルング大統領が本学のブースを訪問し、東教授及びザンビア大学から留学中のマニヤンド研究員が本学とザンビア大学で行う共同研究活動を紹介し、その様子は現地の新聞やテレビにて大きく報道されました。

このほか、本学が議長校を務める「日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）」も会議場内にブースを設置し、加盟校と共にアフリカにおける日本の大学の活動を紹介しました。

一方、一般会場では様々なサイドイベントが企画されており、獣医学研究院が中心となって実施しているSATREPS「ザンビアにおける鉛汚染のメカニズムの解明と健康・経済リスク評価手法および予防・修復技術の開発」の研究チームが、研究報告を行うパネル展示及びセミナーを実施しました。「アフリカにおける人獣共通感染症との闘い」（外務省、JICA、国際獣疫事務局主催セミナー）では、人獣共通感染症リサーチセンター特別招へい教授・統括の喜田 宏ユニバーシティプロフェッサーが登壇し、また、「アフリカの地域のびとと研究者が共創する未来型サニテーション」（総合地球環境研究所サニテーションプロジェクト主催セミナー）では保健科学研究院山内教授と工学研究院片岡技術職員が研究発表を行いました。

更に、8月27日（火）に東京大学にてTICAD7のパートナー事業として開催された日本・南アフリカ大学（SAJU）フォーラムによる大学ダイアログに笠原正典総長職務代理がパネリストとして出席し、本学とザンビア大学との人獣共通感染症抑制・予防に関する共同研究や人材育成の実績、アフリカサカオオフィスの開設、本学のアフリカ諸国との研究や学生交流について紹介しました。

また、TICAD7登壇のために来日されたベライ・ベガシャウアフリカ地域持続可能な開発目標センター総裁が8月28日（水）に函館キャンパス、29日（木）に札幌キャンパスに来学され、水産学部や農学部等の研究関係者が研究紹介を行いました。

（国際部国際連携課）



本学の紹介ブース



ザンビア大統領に本学の活動を紹介



日本アフリカ大学ダイアログパネルディスカッション



ザンビア大統領訪問の掲載記事（ZAMBIA TIMES）